

自己評価報告書

平成23年 5月 6日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20320117

研究課題名(和文) 西欧中世文書の史料論的研究

研究課題名(英文) Studies on European Medieval Documents

研究代表者

岡崎 敦 (OKAZAKI ATSUSHI)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：40194336

研究分野：西洋史学

科研費の分科・細目：史学、西洋史

キーワード：西洋史、中世史、史料学、比較史、古文書学

1. 研究計画の概要

本研究は、西欧中世文書史料を対象として、近年の西欧中世史料学・史料論研究の動向を整理・分析し、重要な論点を提示・検討することを目的とする。研究の成果は、報告書としてまとめるとともに、解説つき文献データベースを構築する。この際、西欧の主要地域や学界を広く視野におさめるとともに、比較史的観点を重視した共同研究を展開して、論点の明確化に努める。

本研究では、以上の目的を遂行するため、関心を同じくする研究者を広く糾合して、学界動向の整理と検討に努めるとともに、ときにゲスト研究者を招聘しながら、定期的にテーマを特定した研究会・シンポジウムを開催して、論点の明確化と共有に資する。

2. 研究の進捗状況

20年度は、専門領域を異にする研究者を糾合してのシンポジウムを2回、西欧中世を対象を絞った研究会を4回、研究動向の共同研究会を2回開催した。年度末には、20年度研究成果報告書を刊行した。

21年度は、専門領域を異にする研究者を糾合してのシンポジウムを1回、西欧中世を対象を絞った研究会を2回開催した。年度末には、21年度研究成果報告書を刊行した。

22年度は、西欧中世を対象とした研究会を2回、文献検討会を1回開催した。なお、海外からの研究者を招聘しての研究会を予定していたが、東北大震災のため、中止となった。年度末に、22年度研究成果報告書を刊行した。

3. 現在までの達成度

当初の計画通り進展している。

2回にわたり、研究文献の合同検討会を開催し、学界動向の検討と文献等のデータベース作りが進んでいる。

毎年度、内外から多数のゲスト研究者を招聘しながら、多くのシンポジウムや研究会を開催し、論点の明確化と学界での共有に資してきた。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、22年度に中止となった海外からの研究者を招聘しての研究会を企画するほか、共同研究を総括するシンポジウムの開催を予定している。また、年度末には、研究成果をとりまとめた報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 岡崎敦「教会訴訟外裁治権の形成(12世紀)」、『史淵』147輯、2010年3月、141-171頁、査読なし
2. 岡崎敦「西欧中世における記憶の管理とアーカイヴズ」、『史淵』146輯、2009年3月、57-89頁、査読なし

[学会発表] (計6件)

1. 岡崎敦「西欧中世の書物と蔵書」、平成22年度九州史学会全体シンポジウム「蔵書目録」、2010年12月11日、於九州大学
2. 岡崎敦「非訟裁治権とはなにか」、西欧中世史料論研究会「西欧中世における訴訟と非訟裁治権」特集「フランス中世における非訟裁治権」シンポジウム、2010年9月4日、於九州大学

3. 岡崎敦「アベラール再論 ―西欧中世の知識人をめぐる省察」、日仏歴史学会第2回研究大会、2010年3月27日、於奈良女子大学

4. 岡崎敦「文書史料の古書冊学 ―西欧中世史料学とテキスト学―」、「西洋中世・近代初期におけるリテラシーとメディア研究会」（慶應義塾大学 平成21年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「15-17世紀における絵入り本の世界的比較研究の基盤形成」2009年度第1回研究会、2009年10月24日、於慶應義塾大学

5. 岡崎敦「リテラシー研究の現在 ―西欧中世史から―」、九州歴史学研究会/西欧中世史料論研究会「リテラシー研究の最前線―西欧中世史から―」、2008年12月6日、於西南学院大学

6. 岡崎敦「中世パリ司教座教会における偽文書作成（11-12世紀）」、第10回七隈史学会大会、2008年9月27日、於福岡大学

〔その他〕

ホームページ

http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/his_west/siryoro_n/siryoro_n_frame.html